

研究指導 石光 真 教授

# 世界遺産平泉の観光戦略提案

加賀 望

## 1. 研究動機・目的

2011年6月26日、岩手県平泉が世界文化遺産に登録された。このニュースは昨年の東日本大震災によって、甚大な被害を受けた岩手県を盛り上げるものとなった。これにより岩手県への観光客の増加が見込まれ、地域経済への大きな経済効果が表れると考える。

しかし、すでに有名な観光地の場合、世界遺産に登録されても、観光客の増加は極端に増えない場合もあり、例え増えても一時的な場合もある。

本研究は、平泉をそういった一過性の「世界遺産ブーム」で終わらせず、観光資源を地方経済活性化の資源として、また震災復興の起爆剤として活用し、持続的な観光開発を提案するものとする。

## 2. 世界遺産登録への経緯

### 2-1 世界遺産の概要

1972年、ユネスコ<sup>1</sup>総会で「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」が採択された。「世界遺産」とは、この条約に基づき、全世界の人々の共有財産として国際的に保護・保全していくことが義務付けられている「遺跡」や「建造物」、「自然」などのことである。

「世界遺産」として登録するには、ユネスコ「世界遺産委員会」において資産の内容がほかに類例のない固有のものであり、国際的に決められた判定基準に照らして「顕著で普遍的な価値」があると認められなければならない。また、その価値にふさわしい、有効な保存管理が手厚くなされることも、必要条件となっている。

世界遺産は文化遺産、自然遺産、複合遺産に分類され、現在国内では12件の文化遺産と4件の自然遺産、合計16件が登録されている。また、世界遺産の総数は936件である。

世界遺産に登録されることで、地域にとっては「金のなる木」として、観光者数増加による経済的効果が期待されていることが挙げられる。

### 2-2 平泉の文化遺産

平泉の文化遺産は、京都に影響されつつも、それと比肩しうる独自性を持つ優れた地方文化を発展させていったことや、かつての重要な政治拠点でありながら、奥州藤原氏の滅亡とともにその重要性を失い、開発されることなく当時の姿を保存している点が評価された。また、周辺の自然環境と寺院群によって浄土が再現された文化的景観であるとして申請された。

### 2-3 平泉の登録への流れ

世界遺産暫定リスト<sup>2</sup>に登載(2001年)

ユネスコ「世界遺産委員会」へ推薦書提出(2005年～2006年)

イコモス<sup>3</sup> (国際記念物遺跡会議)による現地調査(2007年)

「登録延期」勧告<sup>4</sup>を受ける。

推薦書の再提出(2008年～2010年)

イコモスによる現地調査(2010年)

世界遺産委員会で登録決定(2011年6月26日)

平泉は文化遺産、平泉 - 仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群 - として登録された。なお、登録された資産は、中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山の5つである。

## 3. 平泉町の現状

### 3-1 平泉町の概要

平泉町は、岩手県南西部に位置する町である。人口は3月末で8,575人、面積63.39km<sup>2</sup>の岩手県内で最も面積が小さい自治体である。平安時代末期に奥州藤原氏の本拠地があった町として有名である。

### 3-2 平泉の観光客入込数

次の表1は、1989年から2011年までの平泉の観光客入込数を示したものである。

<sup>2</sup> 世界遺産登録に先立ち、各国がユネスコ世界遺産センターに提出するリストのこと。

<sup>3</sup> 文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織

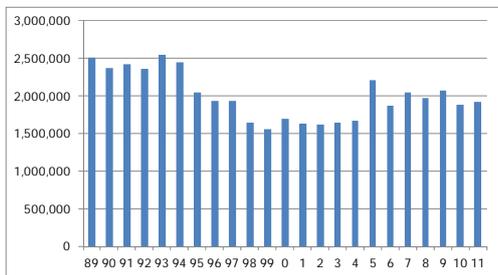
<sup>4</sup> 平泉側が「浄土思想を基調とする文化的景観」として推薦していたが、「浄土思想との関連が十分に示されていない。」という理由から。

<sup>1</sup> 諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国連の専門機関。

1995年から入込数が減少して横ばいが続き、2005年からは増加傾向が見られる。

1989年から2011年の間に起こった、平泉の観光客入込数の増減に係ると考えられる主な出来事は、大河ドラマ『炎立つ』の放送(1993年)、阪神・淡路大震災(1995年)、消費税増税(1997年)、大河ドラマ『義経』の放送(2005年)、岩手・宮城内陸地震(2008年)、ETC休日特別割引(2009年)、東日本大震災、平泉世界遺産登録(2011年)などが挙げられる。『炎立つ』と『義経』はいずれも平泉が舞台となったため、その効果によるものとされる。以上の点から、観光客入込数は、経済の不景気や自然災害、テレビ放送の効果等に影響された面が大きいと考えられる。

表1 平泉の観光客入込数推移



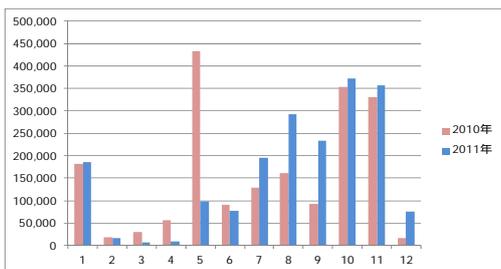
出所:平泉町役場観光商工課資料より加賀作成

表2は、世界遺産登録前の2010年度と、登録後の2011年度の月別観光客入込数を比較したものである。

2010年度の5月の観光客入込数が特に多いのは、気候的に行楽日和であることや、ゴールデンウィーク期間中の観光客数が多いことが挙げられる。平泉町では、5月1日から5日まで「春の藤原まつり」が開催され、特に3日に催される「源義経公東下り行列」は有名であり、毎年義経公役として男性芸能人が行列に参加している。その影響もあり、例年5月の観光客入込数は、1年の中で最も大きいのである。

2011年度は震災の影響で、5月の比較では大幅な減少が見られるが、世界遺産効果によりその後は回復・増加し、5月の落ち込みを巻き返すことができた。

表2 2010年・2011年度月別観光客入込数



出所:平泉町役場商工観光課資料より加賀作成

### 3-3 平泉の課題点

前述のとおり平泉町は県内で最も小さな自治体である。また通過型観光地<sup>5</sup>でもあり、宿泊施設も少ない。小さな自治体であると、新たに宿泊施設や観光施設を設立するためには、財政に大きな負担がかかってしまうことが予想される。小さな地域だからこそ、近隣の市町村等との連携により足りない魅力を補完し合い、貴重な観光資源を活かして多くの人に平泉の魅力を知ってもらい、地域活性化していく必要がある。そして、平泉自体が世界遺産に登録される以前から名の知れた観光地であるため、世界遺産として登録されたとしても、観光客の増加の変化があまり見られなかったり、一過性のものになったりする可能性があると考えられる。そのため、リピーターを確保する周遊ルートの確立が必要である。

以上の点から、

財政に大きな負担をかけない施策

平泉の魅力をより多くの人々に知ってもらう

近隣の市町村との連携や都市を中心とした周遊ルートの確立

の3点が課題として挙げられる。

そこで、の課題の対策として、直接的な税財源がかからない、民間の映像会社の活力を活用する、「フィルムコミッション」の導入を提案する。また、の課題の対策として、従来から施行されている「観光圏整備法」と、2012年に開催される「いわてデスティネーションキャンペーン」により期待できる効果を考察する。

## 4. 施策提案

### 4-1 フィルムコミッションについて

フィルムコミッション(以降FC)は、映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関である。多くが国や市などの自治体やNPOで組織されており、国内ばかりでなく、国際的なロケーション誘致・支援活動の窓口として、地域経済・観光振興、文化振興に大きな効果を挙げている。

#### 4-1-1 FCの3要件

非営利公的機関であること

無償で支援を行う。

<sup>5</sup> 交通網の充実などにより、観光客は増加するものの、滞在時間が短くなるという現象。

ワンストップサービス<sup>6</sup>を提供していること  
 撮影に関する一元的な窓口を担い、ロケーション  
 情報や公的施設等を利用する際の、許認可調整  
 を行う。  
 作品内容を問わないこと  
 全ての依頼作品を支援し、撮影の内容や規模によ  
 って優遇・拒否することはない。<sup>7</sup>

4-1-2 FCの事業内容

主に、ロケ地情報の提供や写真提供、警察、消防、  
 公共施設等の撮影許可申請の代行、撮影隊の食事  
 や宿泊施設の手配、交通機関の支援、エキストラの  
 募集・手配等を行っている。次の図は、その支援の流  
 れを示したものである。

図1 FC支援のフロー図



出所：取手FCホームページを参考に加賀作成

4-1-3 FCによる経済効果

FCによる効果は「直接効果」と「間接効果」の2つに  
 分けて説明される。

「直接効果」とは、ロケ撮影が行われること自体による  
 地域への経済効果を言う。具体的には、スタッフと  
 出演者からなるロケ隊が地域に滞在し、撮影を行うこ  
 とによる、宿泊、飲食、交通、運送、セット建築、大道具  
 製作の面での需要発生という経済効果である。

「間接効果」とは、撮影された映像作品がヒットする  
 ことにより、地域への観光客が増加し、関連グッズの  
 販売などで消費拡大に大きな効果を生むという経済

効果である。

4-1-4 FCの事例

具体的な例として、山形県の「酒田ロケーションボッ  
 クス」が挙げられる。2007年に公開された映画『おくり  
 びと』の誘致に成功し、直接効果と間接効果を合計  
 すると、総額約6億円と発表している。その内訳は、  
 37日間ロケが行われ、一般的な1日当たりの経費が  
 300～450万円とされ、約1億円の直接効果を生み、  
 その後の観光客増加による消費単価などを掛け合わ  
 せた間接効果が約5億円と推算とされている。また、  
 以下の表3は撮影が行われた鶴岡市、酒田市、庄内  
 町、それらを含む庄内地域、そして山形県の観光客  
 入込数を表したものである。2009年は、『おくりびと』  
 がアカデミー賞を受賞したことや、大河ドラマ『天地人』  
 の舞台となりロケが行われたことから、252万人の増加  
 が見られた。

『おくりびと』の撮影を誘致できた背景には、映画の  
 内容・趣旨に合う撮影地（自然や建物）がそろってい  
 ること、酒田ロケーションボックスによる支援が受けら  
 れること、地域住民の理解・協力が得られたことなど  
 があり、誘致しやすい環境であったと考えられる。

表3 山形県観光客数推移 (単位:千人)

	2008	2009
鶴岡市	4,641	4,752
酒田市	3,041	3,147
庄内町	66	119
三川町	333	280
遊佐町	3,401	3,424
庄内地域	11,483	11,722
山形県	39,324	41,845

山形県ホームページより加賀作成

以上の点を参考にし、フィルムコミッションの導入と  
 して、「奥州市ロケ推進室」との連携を提案する。

4-1-5 「奥州市ロケ推進室」との連携

「奥州市ロケ推進室」とは、平泉町に隣接する奥州  
 市による行政型のロケ支援団体である。平安時代の  
 建築物を再現しているテーマパークである「えさし藤  
 原の郷」を中心として、市内に点在する歴史的建造  
 物や自然の中で、数多くの大河ドラマや時代物の映  
 画の撮影が行われた。

主な実績として、平成17年に放送された大河ドラマ  
 『義経』の例が挙げられる。源義経のゆかりの地である  
 平泉を舞台とした作品であり、「えさし藤原の郷」を  
 メインロケ地として使用した。その影響により、表1の  
 グラフを見ると平成17年の観光客入込数が増加して  
 いることがわかる。

<sup>6</sup> 一度の手続きで、必要とする関連作業をすべて完了させられるよう  
 に設計されたサービス。

<sup>7</sup> ただし、ロケ地の使用については管理者によって断られる場合がある。



## 5. 今後の課題

今回調査した平泉の世界遺産登録は、東日本大震災で甚大な被害を受けた東北復興の象徴と言える。登録後の施策として、誘客促進のためのイベントや取り組み、情報発信、受け入れ態勢整備等の事業を行っており、観光客は激増している。しかし、観光業は景気や自然現象に影響されやすい可能性がある。よって、持続可能な計画を立て、その地域の特性を活かす施策が必要である。また、地域を活性化するためには、国や地方自治体、NPO、住民の連携が必要である。観光資源を地域経済活性化の資源とした活用方法による、観光客誘致の施策を行わなければならない。

## 謝辞

本稿を書くに辺り、電話、メール等でご協力いただいた平泉町役場観光商工課、世界遺産推進室、奥州市ロケ推進室の方々に心より御礼申し上げます。

## 6. 参考文献・URL

- [1]毛利和雄『世界遺産と地域再生 問われるまちづくり』新泉書(2008)
- [2]山村高淑、張天新、藤木康介編集『世界遺産と地域振興』世界思想社(2007)
- [3]安江則子『世界遺産学への招待』法律文化社(2011)
- [4]佐滝剛弘『「世界遺産」の真実』祥伝社新書(2009)
- [5]岩手県  
<http://www3.pref.iwate.jp/>
- [6]平泉町  
<http://www.town.hiraizumi.iwate.jp/site/>
- [7]平泉からHIRAIZUMIへ  
<http://www.pref.iwate.jp/~hp0907/>
- [8]ジャパン・フィルムコミッション  
<http://www.japanfc.org/>
- [9]奥州ロケ推進室  
<http://www.oshu-fc.jp/>
- [10]酒田ロケーションボックス  
<http://www.sakata-lb.com/>
- [11]山形県商工観光部観光交流局  
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/shokokanko/110011/kankotokei/21kankousyasu.pdf>
- [12]山形県  
<http://www.pref.yamagata.jp/>
- [13]社団法人 中小企業診断協会 秋田県支部  
「フィルムコミッションと地域振興に関する調査研究報告書」  
<http://www.j-smeca.jp/attach/kenkyu/shibu/h16/akita.pdf>
- [14]取手フィルムコミッション  
<http://www.toride-fc.net/>
- [15]観光庁  
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/>
- [16]伊達な広域観光圏  
<http://www.datena.org/>
- [17]財団法人 東北産業活性化センター 「IVCT情報 これからの観光振興と広域観光への取り組み」  
<http://www.kasseiken.jp/pdf/library/ivict/85.pdf>
- [18]JR東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社  
<http://www.jr-morioka.com/>
- [19]岩手Web News  
[http://www.iwate-np.co.jp/iwate\\_dc/dctop.html](http://www.iwate-np.co.jp/iwate_dc/dctop.html)